



A 試合会場レポート

試合番号 **525**

開催日 **2022/12/17**

令和4年度 天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会 女子 会場：東京体育館

観客数：	2,076	開始時間：	11:00	終了時間：	12:52	試合時間：	01:52	主審：	渡部 菜保子	副審：	佐々木 伸子
------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	--------	-----	--------

久光スプリングス



監督：酒井 新悟
コーチ：豊暉原 峻

通算： - 勝 - 敗
ポイント： -

NECレッドロケッツ



監督：金子 隆行
コーチ：井上 裕介

通算： - 勝 - 敗
ポイント： -

1	20	第1セット 【00:25】	25	3
	21	第2セット 【00:26】	25	
	29	第3セット 【00:29】	27	
	18	第4セット 【00:23】	25	
		第5セット 【 】		

ポイント - 【内はセット時間】 ポイント -
()内は交代選手

<監督コメント>

今日はサーブで相手の体制を崩した中で、どうブロックとレシーブで仕留めるかというところがキーであったが、逆にNECのサーブで攻め込まれ、最後まで自分達のリズムをつかむ事ができなかった。また、ラリーの中で得点しなければならぬ場面での取りこぼし、エラーといった所も今日の課題であるので、今後に生かせるよう強化していきたい。久しぶりの東京体育館でたくさんのファンの方々前で試合が出来た事、また大会開催にあたりご尽力頂いた関係者の皆様に感謝したいと思います。

<監督コメント>

本日もたくさんの応援ありがとうございました。何度も越えられなかった準決勝の壁を越えられたこと、まずは素直に喜びたいです。しかし、明日勝たなければ何の意味もなくなってしまうので、切り替えて明日の決勝に備えたいと思います。序盤からサーブとブロックが機能し、優位にゲームを進めることができました。途中ファーストボールの部分で苦しみました。我慢して自分達のリズムを取り戻すことができました。今日のような全員バレーで明日の一戦も全力で挑みたいと思います。引き続き熱い応援をよろしくお願い致します。

20	深澤	ファンヘッケ	第1セット	上野	ウィルハイト	25
	(西村)	()		(野嶋)	()	
	大竹	平山		山内	塚田	
()	()	(澤田)	(柳田)			
(井上)	中島	()	古賀	山田	()	()
()	(石井)	()	()	()	()	()
リベロ：戸江				リベロ：小島		
21	深澤	ファンヘッケ	第2セット	上野	ウィルハイト	25
	(西村)	()		()	()	
	大竹	平山		山内	塚田	
(中川)	()	(澤田)	(柳田)			
(井上)	石井	()	古賀	山田	()	()
(柴)	()	()	()	()	()	()
リベロ：戸江				リベロ：小島		
29	大竹	深澤	第3セット	上野	ウィルハイト	27
	()	(西村)		()	(古谷)	
	柴	ファンヘッケ		山内	塚田	
(濱松)	()	(澤田)	(柳田)			
(石井)	平山	()	古賀	山田	()	()
()	()	()	()	()	()	()
リベロ：戸江				リベロ：小島		
18	大竹	深澤	第4セット	上野	ウィルハイト	25
	()	(西村)		()	()	
	柴	ファンヘッケ		柳田	澤田	
()	()	()	()	()	()	()
(石井)	平山	()	古賀	山田	()	(島村)
()	()	()	()	()	()	()
リベロ：戸江				リベロ：小島		
	()	()	第5セット	()	()	
	()	()		()	()	
	()	()		()	()	
リベロ：				リベロ：		

<要約レポート>

皇后杯連覇を目指す久光スプリングスと、初優勝を目指すNECレッドロケッツの準決勝。
久光はルーキーを両サイドに置き、若手中心のフレッシュな布陣で臨む。対するNECは日本代表のキャプテンを務めた古賀を中心に、経験豊富なメンバーで試合に挑む。久光の深澤はルーキーらしい思い切りの良いスパイクで、今期新加入のファンヘッケと共にチームの得点源となる。一方、NECは2枚替えで入る澤田、柳田のコンビが躍動。2人とも身長は決して高くないものの、セッターの澤田は守備範囲の広さと、正確なトスワーク、柳田は豊かなジャンプ力でブロック、スパイクで得点を重ねる。第2セットから久光はベテランの石井をスタートから起用。バックアタックへの参加や、狙いすましたサーブ、速い並行トスを打ちこなすなどの攻撃面はもちろん、スパイクレシーブの正確さなど、オールラウンドなプレーでチームを引っ張った。第3セット、久光はセッターを柴に替え、デュースにもつれたセットをもにす。しかし、終始試合の主導権を握っていたのはNECだった。第4セット、NEC・古賀はスタートからエンジン全開で、特にストレートコースへのスパイクは決定率が高かった。相手ブロックを利用したり、隙間を縫ったり、抜群のコントロールをみせる。ウィルハイトの高い打点からのサーブも効果的に久光を崩した。最後にベテランの島村が入り、ブロード攻撃で久光を翻弄。選手起用、ポジションの変更など、戦術の幅の広さと対応力に優れたNECが決勝戦へ進んだ。

作成者：橋本 正太郎